

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(3年制写真科フォトフィールドワークゼミ(昼間部))

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考	
講義	現代写真論	120	○	120	★	120		
実習	スタジオ演習	120	○	120				
実習	写真表現演習 I	120	○	120				
実習	写真表現演習 II	120	○	120				
実習	写真撮影基礎演習／ファインプリント I	120	○	120				
実習	ファインプリント II	120	○	120				
実習	画像処理 I・II・III	300	○	300				
実習	フォトプレゼンテーション演習 I	120	○	120				
講義	基礎ゼミナールA	120	○	120	★	120		
講義	基礎ゼミナールB	120	○	120	★	120		
講義	ゼミナール	360	○	240				
実習	作品制作演習 I・II・III	360						
講義	フィールドワークプランニング	120	○	120				
実習	海外フィールドワーク	300	○	300				
実習	海外フィールドワークスクーリング	120	○	120				
実習	プレゼンテーション演習	60	○	60				
実習	文章表現演習 II	60	○	60				
実習	エディトリアルワーク	60	○	60				
実習	ディベート演習 I	60						
実習	ディベート演習 II	60						
実習	スタジオライティング	120	○	120	★	120		
講義	英会話	120	○	120				
講義	メディア論	120	○	120				
講義	社会学	120	○	120				
実習	写真創作演習	120	○	120				
講義	フォローアップ講座	60	○	60				
実習	フィールドワーク	120	○	120	★	120		
実習(選択)	フォトクリエイティブ演習		○	120			選択科目のうち4科目を選択し受講	
実習(選択)	フォトアート演習		○	120				
実習(選択)	ルポルターージュ演習		○	120				
実習(選択)	Web表現演習		○	120				
実習(選択)	ビジュアルデザイン		○	120				
実習(選択)	マガジンメイキング							
実習(選択)	文章表現演習 I		○	120				
実習(選択)	風景写真演習		○	120				
実習(選択)	デジタル表現演習	480	○	120				
実習(選択)	ムービー制作演習		○	120				
実習(選択)	写真創作演習 II		○	120				
実習(選択)	ダークルーム		○	120				
講義(選択)	写真史		○	120				
講義(選択)	写真科学		○	120				
講義(選択)	編集出版論		○	120				
講義(選択)	ドキュメンタリー写真論		○	120				
講義(選択)	美術造形論							
講義(選択)	異文化交流演習(留学生必修)		○	120				
総授業時数		4,200		5,040		600		
卒業に必要な授業時数		3,600						

2020

区分	必修	対象	I部1年
----	----	----	------

科目名	現代写真論		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	鳥原 学		
授業の到達目標・講義概要	<p>写真は「撮る」「見る」「撮られる」という三つの要素で成り立っています。より良い写真を「撮る」ために、写真家には写真を「見る」能力と、「撮られる」側のことを考える能力が不可欠。これは、多くの写真を見ることでしか身につけません。それも自分のセンスに頼るだけではなく、ポイントを押さえて考えながら見ること。現代の写真表現は非常に多様であり、使う技術や発表するメディア、なによりテーマの幅が非常に広いからです。この授業ではジャンルごとに現代写真の流れを紹介しながら、資料的な映像の鑑賞などを行い、理解を深めていきます。月毎に課題として写真展のレポートを課します。写真の現在に触れながら、受講の写真を見る能力の基礎を作ることが目標です。授業構成は前期が基礎として「表現とコミュニケーション」、後期が「写真と社会変容」をテーマとしています。テキストは「現代写真の展開」を使用しますが、前後期それぞれの授業が始まる前に、教務課を通じて購入してください。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	写真子校で何を学ぶか
	2	イントロダクション	イントロダクション「写真の起源」
	3	カメラと写真・映像産業	「描写の進化と範囲の拡大」
	4	カメラと写真・映像産業	「フラット化した時代のなかで」
	5	ポートレイト	「写真の社会的役割」
	6	ポートレイト	「理想と現実を求めて」
	7	スナップショット	「最も手軽な記録」
	8	スナップショット	「” 決定的瞬間 ” 以降」
	9	ビジュアル・コミュニケーションの歴史	「1920~30年代の映像実験」
	10	報道とドキュメント	「記録と宣伝」
	11	報道とドキュメント	「写真家の自立へ」
	12	報道とドキュメント	「総写真家時代の可能性」
	13	広告写真	「消費社会の原動力」
	14	広告写真	「音楽産業の拡大と写真の影響」
		15	
後期	1	イントロダクション	表現と社会変容
	2	芸術と写真	「芸術家の写真、写真家の芸術」
	3	芸術と写真	「前衛芸術とラディカルな志向」
	4	芸術と写真	「美術館の時代、再帰的な表現へ」
	5	ファッション写真	「理想の生活を描く」
	6	ファッション写真	「多様性の受容について」
	7	ヌード写真	「ヌード、ネイキッド、ポルノ」
	8	ヌード写真	「セックス革命とジェンダーについての表現」
	9	自然と写真	「写真史のもうひとつの起源」
	10	自然と写真	「自然保護と観光への奉仕」
	11	自然と写真	「生態観察から文化人類学的視点の強まり」
	12	建築とランドスケープ	「モダン都市の視覚」
	13	建築とランドスケープ ケープ 物語る写真	「廃墟的未来への憧憬」
	14	東アジアの写真史	「韓国、台湾、中国の写真史」
		15	テスト
成績評価方法	授業態度、課題の提出状況、授業態度を総合して判断します。スマホ、PCの使用は講師の指示のあるときのみ許可します。なお、出席が全体の2/3未満の場合は、不合格となります。		
テキスト 参考書	「現代写真の展開」(教務課を通じて購入のこと)		
講義の特徴・形式 と教員紹介	視聴覚教材を使用しながら、様々な作家を紹介する講義形式を基本とするが、学生との対話なども取り入れる。また授業ごとに学生にはレポートを記入してもらい、担当教員は1993年から写真弘社にある写真ギャラリーアート・クラブ運営担当し、様々な展覧会をてがけた。1998年からフリーになり、現在は写真研究者、写真評論家として様々な雑誌などに寄稿し、また写真関連の書籍も出版している。写真表現や写真家に関する豊富な知識に基づいて、写真家やカメラマンとして必要な写真をみる能力を身につけるための授業を展開する。		

2020

区分 必修 対象 I部2年FW

科目名 基礎ゼミナールA

開講期 前後期 単位数 6

講師名 鈴木 邦弘

このゼミは、3年前期半年間の海外フィールドワークでの撮影取材に直結する授業です。前期前半は、撮影対象からテーマを見つけ出すことを学びます。指定された場所(動物園)から自分なりのテーマを見つけ出し、それに沿って撮影し、撮影した写真群のシーケンス、構成を考えてまとめてもらいます。前期後半から後期にかけては、各自の海外フィールドワークのテーマを国内に置き換えて作品制作を行います(置き換えが無理な場合は国内撮影のテーマを考えて下さい)。授業内で講評を中心に行い、作品をまとめてゆきます。最終的には、一年間で、ひとつのテーマにそった30枚以上の写真でまとめた作品を制作し、自分自身の作品を制作することが到達目標です。前期は15枚以上(3枚以上の作品制作の途中経過を見る)、後期は30枚以上(前期の写真を含めて)のひとつのテーマにそった写真でまとめた作品を提出してもらいます。

授業計画 回数 主題・目的 授業予定

Table with 3 columns: 回数, 主題・目的, 授業予定. Rows 1-15 for the first semester (前期).

Table with 3 columns: 回数, 主題・目的, 授業予定. Rows 1-15 for the second semester (後期).

成績評価方法 提出した写真作品の点数を成績とします。なお、出席が全体の2/3未満の場合は、不合格となります。

テキスト 参考書

講義の特徴・形式と教員紹介 撮影してきた作品を講評することを基本とする。担当教員はフリーランスカメラマン、写真家として、数々のドキュメンタリーや社会的な問題を対象としたルポルタージュを発表している。その優れた作品により、伊奈信夫賞を受賞している。いままでの写真家としての豊富な経験や知識に基づき、写真家育成に向けた授業を展開している。

2020

区分 必修 対象 I部2年FW

科目名 基礎ゼミナールB

開講期 前後期 単位数 6

講師名 飯塚 明夫

前期と後期で授業内容が大きく異なります。まず前期授業は、有機農法や地域のリーダーとしての知識と技術、心構えなどを学ぶために、アジア・アフリカなどから来ている研修生の姿と、彼らを受け入れているアジア学院の様子を、写真と文章でルポルタージュします。授業目的は以下の3つです。
①異文化の人々とのコミュニケーション力をつける。
②取材力をつける（取材テーマ、取材対象の理解、撮影目的、インタビュー内容、取材ノートなど）。
③写真の編集力をつける（セレクト、構成）。 具体的には、2つの課題作品に取り組みます。
課題A：「マイドリーム」（個人制作）。
課題B：「アジア学院の一日」（個人制作+共同写真展示）。
後期授業では前期で学んだルポルタージュとマレーシアの取材経験を活かし、アジア取材に向けて更にテーマを掘り下げ、写真的思考力、表現力の向上をはかることを到達目標としています。

授業計画 回数 主題・目的 授業予定

Table with 4 columns: 回数, 主題・目的, 授業予定. Rows 1-15 for the first semester (前期).

Table with 4 columns: 回数, 主題・目的, 授業予定. Rows 1-15 for the second semester (後期).

成績評価方法 写真作品の内容と質を重視するが、授業態度、出席数も考慮し評価する。なお、出席が全体の2/3未満の場合は、不合格となります。

テキスト 参考書

講義の特徴・形式と教員紹介 撮影してきた作品の講評や提出された課題内容の検討することを基本とする。担当教員は青年海外協力隊としてザンビアにて写真講師を経験、その後フリーランスカメラマン、写真家として、アフリカを対象とした数々の作品を発表している。いままでの写真家としての豊富な経験や知識に基づき、写真家育成に向けた授業を展開している。

2020

区分	必修	対象	I部2年FW
----	----	----	--------

科目名	フィールドワーク		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	五十嵐 太二		
授業の到達目標・講義概要	3年次に実施する海外フィールドワークの取材撮影での旅を確実に安全なものにするため、前期は撮影技術の基礎を、後期は確認すべき諸事項（訪問国情勢、危機管理、撮影テーマ、取材交渉方法など）を総合的に学ぶ。3年次に実施する海外フィールドワークの取材撮影での旅を安全なものにするための知識の習得、取材撮影を滞りなくすすめていくための取材能力を身に付けることが到達目標です。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業説明 撮影機材説明	授業説明、FWに必要な機材の説明、カメラの点検法
	2	カメラの仕組み	一眼レフの仕組みと特性・写真の三大失敗
	3	露出① 絞り	適正露出、絞りの表現効果、被写界深度、露出計の使用法①
	4	露出② シャッター	シャッタースピードの効果、相反則、露出計の使用法②
	5	露出③	EV、露出補正、ヒストグラムの見方
	6	画面構成①	構図、画面構成（アングル、ポジション、ディスタンス）
	7	画面構成②	レンズの効果・画角とパース・焦点距離
	8	作品講評	撮影技術基礎の確認
	9	写真用品解説	フィルターの種類と使用法、三脚の使用法・選び方
	10	光源と色①	光の種類、ライティングポジション（順光、逆光、斜光etc）
	11	光源と色②	リバーサル、デジタルカメラの特性、WBの解説
	12	撮影マナー	撮影時のマナーについて
	13	フラッシュ①	フラッシュの使用法①
	14	フラッシュ②	フラッシュの使用法②
	15	おさらい	理解不十分だった点のおさらい
後期	1	後期授業説明	授業説明、カウンセリング
	2	撮影テーマ①	撮影テーマを考える①
	3	作品講評①	FWの旅で撮る可能性のあるテーマで撮影した作品①
	4	訪問国情勢考察①	訪問国の政治・経済・文化等を学ぶ①（5カ国～学生発表）
	5	訪問国情勢考察②	訪問国の政治・経済・文化等を学ぶ②（5カ国～学生発表）
	6	訪問国情勢考察③	訪問国の歴史考察①～映画『ガンジー』など
	7	訪問国情勢考察④	訪問国の歴史考察②～映画『キリングフィールド』など
	8	危機管理①	危機管理（外務省危機管理対策ビデオ）
	9	危機管理②	病気・ケガ・事故など過去事例の確認と対策①
	10	危機管理③	病気・ケガ・事故など過去事例の確認と対策②
	11	危機管理④	病気・ケガ・事故など過去事例の確認と対策③
	12	撮影交渉の仕方	企画書の書き方、アポの取り方、メール送付方法
	13	撮影テーマ②	撮影テーマを考える②
	14	作品講評②	FWの旅で撮る可能性のあるテーマで撮影した作品②
	15	荷物確認	荷物、バックの選び方

成績評価方法 習熟度、出席回数、授業態度等をもとに総合的に評価。なお、出席が全体の2/3未満の場合は、不合格となります。

テキスト 参考書 授業配布プリント

講義の特徴・形式と教員紹介 実習授業と講義形式の授業の両方を基本とする。担当教員はアフリカやアメリカで学んだ知識と経験を活かし、ナショナルジオグラフィックTVの通訳コーディネーター、スチール担当として、様々な経験を積んでいる。写真家としてもアフリカを題材とした作品を発表している。いままでの海外経験や写真家としての豊富な経験や知識に基づき、海外での取材撮影の基礎を身に付けるための授業を展開している。